

統計委員会横断的課題検討部会
新旧データ接続検討ワーキンググループ会合（第1回） 議事概要

1 日 時 平成28年6月30日（木）13:10~13:55

2 場 所 中央合同庁舎2号館（総務省） 10階 1002会議室

3 出 席 者

【委員】

北村委員（座長）、河井委員、中村委員

【府省・地方公共団体等】

総務省統計局、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、
日本銀行、東京都

【事務局】

総務省統計委員会担当室：横山官房審議官、山澤室長、上田次長、阿向次長、
吉野政策企画調査官

総務省政策統括官（統計基準担当）付：吉牟田統計企画管理官、澤村統計審査官

- 4 議事次第（1）新旧データ接続検討ワーキンググループの設置について
（2）検討の進め方等について
（3）現状の報告について
（4）検討すべき論点について
（5）その他

- 5 配布資料 資料1 新旧データ接続検討ワーキンググループの設置について
資料2 WGの検討の進め方（案）
資料3 遡及改訂対応が生じる要因の整理と検討対象の明確化について
資料4 検討対象とする統計調査の範囲の明確化について
資料5 現状報告（9統計）
資料6 検討すべき論点（案）

6 議事概要

- （1）新旧データ接続検討ワーキンググループの設置について

資料1に基づき、新旧データ接続検討ワーキンググループの設置について確認された。

- （2）検討の進め方等について

事務局から資料2、3、4に基づき、新旧データ接続検討ワーキンググループの検討の進

め方など、今回の審議の枠組みに関する説明が行われた後、質疑応答がなされた。主な意見は以下のとおり。審議の結果、検討の進め方等については、いずれも了承された。

<資料2について>

- ・標準的方法の整理については、現在使用されている接続方法を列挙するだけの整理ではないと理解して良いか。
- 複数の統計調査をみると、標準的方法が多数を占めていることが分かるので、標準的な整理はある程度可能と考える。
- ・標準から外れるものについては、なるべく標準を目指すということか。
- 統計調査の質により、標準がどうあるべきか異なるので、一つの方法に収斂するというわけではない。
- ・検討すべき事象の明確化については、平均値における指数の断層だけでなく、分散やバラツキも検討対象と考えているのか。
- 標本交替に伴う新旧の断層に検討対象を絞ることとしているが、それ以上の検討が必要ということであれば、今後検討したい。

<資料3について>

- ・昨年度の毎月勤労統計の未諮問審議では、基準改定による断層の話も出ていたと思う。今回は、標本交替による新旧の断層をまず検討し、並行して母集団情報の変更に伴う更新を検討すると思うが、基準改定は全く検討しないのか。
- 基準改定は指数や加工統計をイメージしている。毎月勤労統計は標本交替による新旧の断層と母集団情報の変更が議論となった。今回は、標本交替に伴う新旧の断層を中心に審議をお願いしたい。
- ・毎月勤労統計は36か月調査して、37か月目の1か月を新旧サンプルで重複して調査し、その1か月の新旧間のギャップを利用して基準数値を改訂する案が示された。1か月の断層を何年間も指数の補正に適用する方法に問題があるかといったことも議論するのか。
- こうした点も含めた議論ができれば良いと考えている。ローテーションした場合に、継続サンプルでどういう指数が出るか、入れ替えたらどういうギャップが出るかということとは、昨年度の毎月勤労統計の審議で出てきたが、今回も議論したい。

(3) 現状の報告について

事務局から資料5に基づき、検討の対象とする9つの基幹統計の現状報告<9統計のうち無作為抽出による標本調査部分のみ抜粋して整理>について説明が行われた後、質疑応答がなされた。主な意見等は以下のとおり。

① 毎月勤労統計調査について

- ・そもそもの経緯を調べなければ分からないが、毎月勤労統計調査は、他の統計調査に比べると標本調査期間が長くギャップが生じやすくなっている。

② 商業動態統計調査について

- ・統計上、新旧標本の接続でギャップが生じる問題は、認識されているか。
- ギャップは生じていない。備考にあるようにサンプルについては、それぞれ対象となっ

た事業所の前月比を求め、センサスの母集団情報の販売額を基軸に、サンプルの前月比で当月分の推計販売額を全国ベースで推計する手法をとっている。

サンプルが変わる最初の月は、前月と当月分を報告してもらって推計するのでサンプル替えによる断層は生じないようにしている。

- ・今のやり方は、一種の断層調整をしている。つまり前月比でつなげているので、ギャップが生じないのではなくて、毎月、ギャップ修正をしていると解釈できる。毎月勤労統計調査とは異なる新たな手法をとっていると言えないか。
- ・どのように比推計がされているのか、事務局で確認してほしい。

③ 調査客体の重複調整について

- ・複数の統計調査で、続けて調査する客体があったときに重複是正しているのか。もし、考慮されているのなら、母集団の企業数が少ないときは、ランダムサンプリングにならず、統計学的に問題だと思う。

→事業所母集団データベースを使用する統計調査については、重複是正しているが、1回、2回当たっているからといって外すものではない。ほとんどの調査で、上位層は、悉皆調査になっているので、専ら中小の客体で負担が多ければ、別途のサンプルをランダムに抽出し調整している。

(4) 検討すべき論点について

事務局から資料6に基づき、検討すべき論点について説明が行われた後、質疑応答がなされた。主な意見は以下のとおり。審議の結果、資料6は了承された。

- ・昨年度の未諮問審議の際に、景気指標として見る場合には、継続標本を用いて指数や平均値を算出することも有用との結論であったが、今回の論点にはこの点も含まれていると理解して良いか。

→含まれている。

- ・先程指摘のあった商業動態統計の接続方法も含めて検討すべき論点を事務局で整理するように。

(5) その他

次回の会合日程については、後日事務局から日程調整の連絡をすることが案内された。

以上

<文責 総務省統計委員会担当室 速報のため事後修正の可能性あり>